

◆本号で一年・ご笑談に感謝  
 ・心機一転とはいきませんが、少しでも充実した内容でふるりの歩みを発信したいと思います。いつまで続けられるか予定も自信も無いが宜しく。

## 空白の550年間?

**平安**時代から鎌倉・建武の新政時代(794~1336)までの550年間は、古文書等の記録資料が極端に少ないことから専門家の間では「空白の550年間」とも言われている。

■確かにこの間は「天皇中心の平安時代」→「武士誕生の源平争乱時代」→「武家政権成立の鎌倉時代」→「天皇中心の建武の新政」と政権が目まぐるしく交替した。

しかも、それに伴って政治の中枢も奈良→京都→鎌倉→京都と交替するなど国中のあらゆる機能がまとまりを欠く混乱期であった。こうした世情が“空白”を生んだのでしょう。

**美濃地方** に関わる情報も極めて少なく、身近な書物の読みあさりの中から僅かに下記の記述に接したのみである。



- ◆ 美濃地方は、平安時代の後半から源経基の流れをくむ子孫が勢力を持ち土着して**美濃源氏**と名乗り支配するようになった。
- ◆ 鎌倉時代の一時期、大内惟基・北条氏一門が美濃守護に任じられたが、その後美濃源氏の流れをくむ**土岐氏**が守護となり室町時代を迎えた。
- **土岐氏**は、摂津源氏の子孫が美濃土岐郡(現瑞浪市)に土着して居宅を構え「土岐氏」と称したのが始まりで、諸派を集め「**桔梗一揆**」と呼ばれる強力な武士団を構成した。

## 木知原・土岐氏の支配下となる

(桔梗)



**土岐**家は**斎藤道三**に追放(1552年)されるまでの約250年間この地方を統治した。長期の政権下で安定していたように思われるが、一族の内紛が頻繁に起きて木知原を直接支配する領主も目まぐるしく交替しその対応にほんろうされた時代であった。

勿論後半は“戦国の世”となり一層不安定になった。(北方城主安藤家領下はもう少し後)

## 苦しさから抜け出せないくらしがつづく



□平安時代の庶民の暮らしは前号の「貧窮問答歌」に近いくらしが続いていた。当時のくらしは凡そ下記のようにであった。**木知原も同様!**

カラムシ(道端繁茂)からの繊維織物

- ◆ 平安時代と言えば貴族の華やかなくらしを思い描くが
  - ◆ 庶民はまだ竪穴式住居に近い**掘っ立て小屋**に住み、**苧麻(ちょま)**の着物を着て、食べ物は**ひえ・アワ**等の雑穀が主食でコメを口にすることは殆どなかった。
  - ◆ 平均寿命は**30歳**。30歳と低い訳は子供の死亡率が5割以上と高かったからである。
    - ・参考までに、江戸時代は子供死亡率5割で平均寿命は45歳:家康は享年75)
  - ◆ 年貢は重く、**雑徭**も**農民兵**も手弁当・無報酬であった。(農民兵は後日詳細に)
  - ◆ 苦しさの余り**逃亡**する農民も後を絶たなかったようであるが行く末は哀れ。
- ◆ 統治は都からの**国司・郡司**、鎌倉からの**守護・地頭**の**二重支配**を受ける地域も多く、“泣く子と地頭には勝てぬ”といった横暴ぶりも各地で起きていたのがこの時代であった。
- ◆ 貴族文化の一つ「**ひな祭り**」が庶民の間に広がり始めたのは100年後であることから、如何に貴族の暮らしとの差が大きかったかが伺われる。



◆ 各書物とも庶民の暮らしについては一般的な記述に終わっているが、人の移動や交流が頻繁になり宮廷や各地の文化が広がり始め従来の閉鎖的な暮らしに変化が生じてきた事は確かである。(木知原の暮らしについては何ら具体事例を見付けることが出来ず残念・ゴメン)